

# 高知県感染症発生動向調査（週報）

2015年 第32週（8月3日～8月9日）

## ★お知らせ

### ○いわゆる夏風邪（ヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜熱 など）に注意しましょう！

これらの疾患は夏に流行する代表的な疾患です。

#### ・ヘルパンギーナに気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第31週の5.07から第32週では5.67と横ばいです。高知市、中央東、幡多で増加し、高知市、中央西では警報値を超えています。中央東、須崎、幡多、安芸では注意報値を超え、高知県全域でも注意報値を超えています。

突然の発熱と口腔粘膜の水疱性発疹を特徴とし、夏期に乳幼児を中心に流行する急性ウイルス性咽頭炎です。まれには無菌性髄膜炎、急性心筋炎などを合併することがあります。いわゆる夏かぜの代表疾患で、その大多数はエンテロウイルス属、流行性のものは特にコクサッキーウイルスA2、3、4、5、6、10型などにより起こります。

感染は、飛沫、経口及び接触感染です。感染者との密接な接触を避け、うがい手洗いを励行しましょう。

回復後も2～4週間の長期にわたり便の中にウイルスが排出されることがありますので、日頃からしっかりと手洗いが大切です。

#### ・手足口病に気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第31週の4.57から第32週は3.43と減少しています。中央東、幡多で増加し、須崎、安芸では警報値を超えています。中央東、高知市、幡多では注意報値を超え、高知県全域でも注意報値を超えています。

病原体検出情報では、手足口病の原因となるCoxsackievirus A16が検出されています。この病気は、4歳くらいまでの幼児を中心に夏季に流行が見られる疾患であり、2歳以下が半数を占めますが、学童でも流行的発生がみられることがあります。

学童以上の年齢層の大半はすでにこれらのウイルスの感染（不顕性感染も含む）を受けている場合が多いので、成人の発症はあまり見られません。

通常は3～5日の潜伏期をおいて、口の中、手のひら、足の裏や足背などに2～3mmの水疱性発疹ができ、時に肘、膝、臀部などにも出現します。

まれに髄膜炎、脳炎、心筋炎などを生じることがありますので、高熱や嘔吐、頭痛などがある場合は注意してください。

また、倦怠感や口腔内の痛みなどから食事や水分を十分にとれず、脱水になることもありますので、こまめな水分補給を心がけてください。

感染は、飛沫、経口及び接触感染です。感染者との密接な接触を避け、手洗いをしっかりとしましょう。

回復後も2～4週間の長期にわたり便の中にウイルスが排出されることがありますので、日頃からしっかりと手洗いが大切です。

#### ・咽頭結膜熱（プール熱）に気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第31週の0.37から第32週は0.10と急減しています。幡多以外で減少しています。

咽頭結膜熱はアデノウイルス（主に3型）によるウイルス性の感染症で、発熱・咽頭炎・結膜炎が主な症状で、3～5日間程度持続します。潜伏期は、5～7日とされています。プールでの接触やタオルの共用により感染することもあるので、「プール熱」と呼ばれることもあります。通常、6月頃から徐々に流行しはじめ、7～8月にピークとなります。

特異的治療法はないため、対症療法が中心となります。眼症状が強い場合には眼科的治療が必要になることもあります。感染経路は主に飛沫感染、接触感染ですが、その感染力は強力であり、タオル、ドアの把手、エレベーターのボタン、階段の手すり等の患者が触れたものを触ることによっても感染する場合があります。予防としては、感染者との密接な接触を避けること、流行時にうがいや手指の消毒を励行することです。また、衛生を保つため、プールからあがったときは、シャワーを浴び、うがいをしましょう。

感染症予防の基本は、

★☆☆手洗いから★☆☆

調理時や食事前、トイレの後は石けんと流水でしっかり手を洗いましょう。

★県内での感染症発生状況

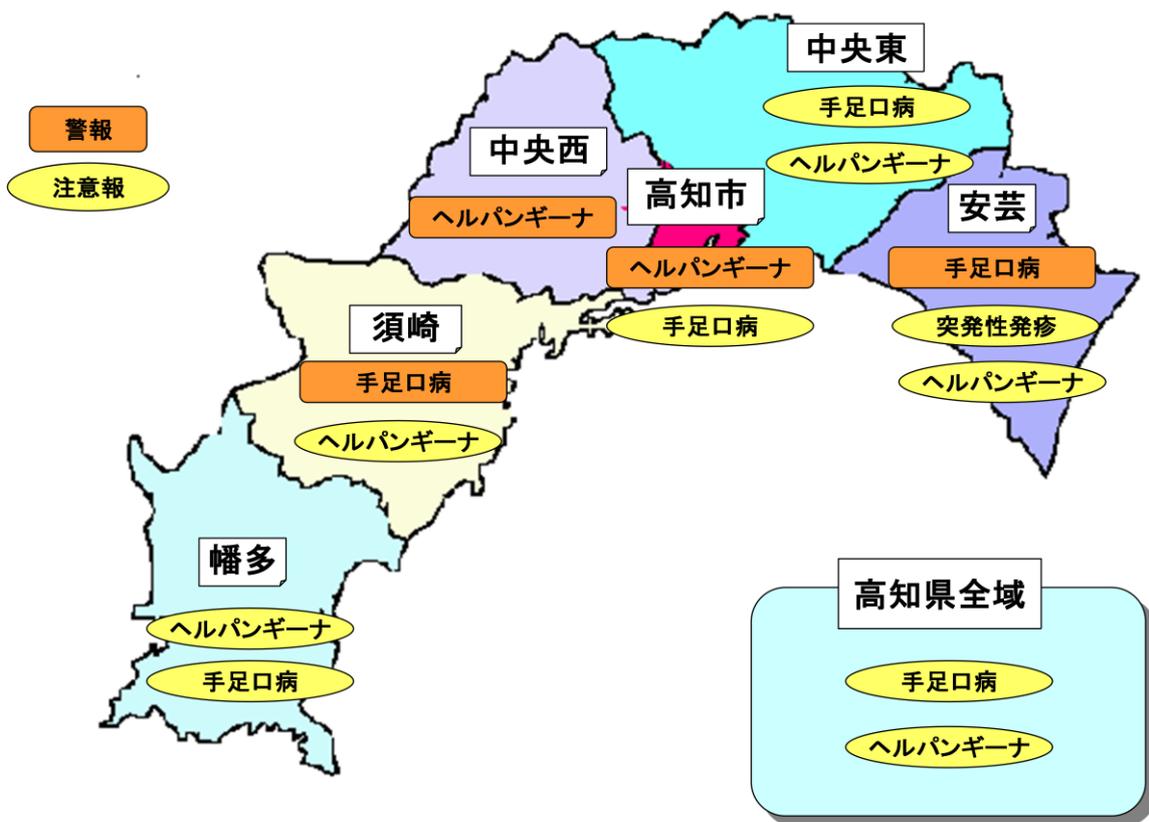
定点把握感染症（上位疾患）

32週（8月3日～8月9日）

↑：急増    ↗：増加    →：横ばい    ↘：減少    ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
ヘルパンギーナ	→	5.67	高知市、中央東、幡多で増加し、高知市、中央西では警報値を超えています。中央東、須崎、幡多、安芸では注意報値を超え、高知県全域でも注意報値を超えています。
手足口病	↘	3.43	中央東、幡多で増加し、須崎、安芸では警報値を超えています。中央東、高知市、幡多では注意報値を超え、高知県全域でも注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	↘	1.93	中央西、須崎で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	0.83	須崎で増加しています。
流行性耳下腺炎	↑	0.83	幡多、高知市で増加しています。

★地域別感染症発生状況





★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
32	感染性胃腸炎	3	男	高知市	Astrovirus NT

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
30	急性肺炎	1	女	中央東	Cytomegalovirus
30	頸部リンパ節炎	7	女	幡多	Epstein-Barr virus
31	手足口病？ヘルパンギーナ？	1	女	須崎	Coxsackievirus A10
31	手足口病	1	男	須崎	Coxsackievirus A16
31	手足口病	10ヶ月	男	須崎	Coxsackievirus A16
31	手足口病	4	男	須崎	Coxsackievirus A16
31	不明発疹症	1	女	須崎	Coxsackievirus A9
31	不明熱	2ヶ月	女	須崎	Echovirus 7
31	ヘルパンギーナ	2	男	高知市	Rhinovirus
31	クループ症候群	1	男	幡多	Rhinovirus

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	88	40歳代(男)	高知市
		1	89	90歳代(女)	
		1	90	80歳代(女)	
		1	91	80歳代(女)	
5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	11	90歳代(女)	中央西
	梅毒	1	4	30歳代(男)	高知市

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
高知市	高知医療センター小児科	RSウイルス感染症1例(1歳女)
		ヒトメタニューモウイルス1例(8ヶ月女)
		病原性大腸菌7例(0ヶ月男、1歳女、3歳女、4歳男、6歳女、10歳女、17歳男)
	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス扁桃炎3例(1歳男2人、2歳女)
		マイコプラズマ肺炎1例(11歳女)
		病原性大腸菌0-153腸炎1例(2歳女)
		病原性大腸菌0-25腸炎1例(10歳女)
	福井小児科・内科・循環器科	伝染性紅斑2例(6歳男、8歳女)
		溶連菌感染症とヘルパンギーナ合併1例(40代女)
	細木病院小児科	キャンピロ1例(5歳男)
サルモネラ1例(5歳男)		
中央西	石黒小児科	ヘルペス性歯肉口内炎1例(4歳男)
	くぼたこどもクリニック	帯状疱疹1例(7歳女)
須崎	もりはた小児科	伝染性紅斑1例(4歳女：県外から帰省)
		HFMD・ヘルパンギーナの流行が続く
幡多	さたけ小児科	アデノウイルス1例(2歳男)
		マイコプラズマ1例(5歳女)
		帯状疱疹1例(3歳男)

## ★全国情報

### 第30週（7/20～7/26）

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核290例

3類感染症：細菌性赤痢3例、腸管出血性大腸菌感染症97例、パラチフス1例

4類感染症：E型肝炎5例、A型肝炎4例、デング熱3例、日本紅斑熱3例、レジオネラ症44例

5類感染症：アメーバ赤痢10例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症16例、急性脳炎6例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、後天性免疫不全症候群12例、侵襲性インフルエンザ菌感染症7例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、侵襲性肺炎球菌感染症13例、水痘（入院例に限る）2例、梅毒20例、播種性クリプトコックス症1例、破傷風1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん4例

報告遅れ：回帰熱2例、つつが虫病1例、デング熱1例、日本紅斑熱2例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症28例、急性脳炎7例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、水痘（入院例に限る）6例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、播種性クリプトコックス症1例

### ◆手足口病（2015年7月31日現在）

手足口病（hand, foot, and mouth disease：HFMD）は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス性感染症であり、乳幼児を中心として夏季に流行する。手足口病の病原ウイルスは主にコクサッキーウイルスA16（CA16）、エンテロウイルス71（EV71）であり、その他コクサッキーウイルスA6（CA6）やコクサッキーウイルスA10（CA10）などによっても引き起こされることがある。基本的には数日の内に治癒する予後良好の疾患であり、不顕性感染例も存在する。しかし稀ではあるが、髄膜炎、小脳失調症、脳炎などの中枢神経系の合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を呈することがある。感染経路は飛沫感染、接触感染である。手足口病に対する有効な治療薬はなく、対症療法が行われる。予防策としては、有効なワクチンはなく、手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本である。水疱内容には感染性のあるウイルスが含まれているので、患者との濃厚な接触は避けるべきである。

手足口病は、感染症発生動向調査において全国約3,000カ所の小児科定点医療機関が週単位での届出を求められる5類感染症の一つである。小児科定点からの報告に基づくため、成人における動向は不明である。2014年第44週以降、過去5年間の平均と比較して多い状態が続いており、2015年は第23週頃から急増した。第29週には定点当たり報告数10.16（報告数31,920）となり、過去10年間で最も報告数が多かった2011年第28週の定点当たり報告数11.0（報告数34,216）に次いで多い報告数となった。地域別では、第21週から第25週までは、定点当たり報告数上位10位の都道府県は全て西日本で、第25週上位3位は、徳島県、香川県、山口県であった。第26週より定点当たり報告数上位10位に入る東日本の都道府県数が3県、第28週には4県、第29週には7都県と増加した。第29週上位3位は、福井県、埼玉県、栃木県であった。2015年第30週（2015年7月20～26日）の手足口病の定点当たり報告数は9.38で前週（10.16）よりやや減少した。第30週は、都道府県別では石川県（19.24）、埼玉県（18.16）、福島県（16.93）、栃木県（14.85）、福井県（14.68）の順であった。年齢群別では、2015年第1～30週では、2～3歳の37%が最も多く、次に0～1歳が35%で3歳以下が72%、5歳以下で全報告数の90%を占めた。性別は男児が55%とやや多かった。この年齢分布・性差は例年並みである。

手足口病の患者から検出されたウイルスは年によって異なる。過去5年間で手足口病が大流行した2011年はCA6、2012年にはEV71およびCA16、2013年はCA6が多く検出され、2014年からは主にCA16が検出されるようになった。2015年に最も多く検出されているウイルスはCA16であり、ウイルス検出報告381件中、CA16が206件（54.1%）と半数以上を占めている（2015年7月31日現在、手足口病由来ウイルス、年別2011～2015年）。髄膜炎および脳炎・脳症を起こす事が知られているEV71と比較して、今シーズン流行しているCA16による手足口病は、臨床的には重症化しにくいとされる。2歳以下の乳幼児においては、CA16の他、CA6も検出されている。近年のCA6による手足口病では、従来の手足口病における臨床所見と比較して、これまでより水疱が大きいことや、手足口病発症後、数週間後に爪脱落が起こる症例（爪甲脱落症）が報告されてきた。

手足口病は、我が国の学校保健安全法において、学校において予防すべき感染症として個別に規定はされていない（ただし、学校で通常見られないような重大な流行が起こった場合に、その感染拡大を防ぐために、必要があるときに限り、校長が学校医の意見を聞き、第三種の感染症の「その他の感染症」として緊急的に措置をとることができる）。患児の状態が安定していれば、登校（園）は可能であるが、症状が消失した後

も2～4週間にわたり児の便などからウイルスが排泄される。回復した児に対して長期間の欠席を求めることは現実的ではないため、流行期の保育園や幼稚園などの乳幼児施設においては、手洗いの励行と排泄物の適正な処理、またタオルを共用しないなどの感染予防対策が重要となる。

2015年の手足口病の報告数はこれまでの同時期と比較して患者報告数の多い状態が続いており、現在ピークを迎える時期と予想されるため、その発生動向には引き続き注視し、各関係機関において感染予防対策を講じる必要がある。

---

**中東呼吸器症候群（MERS）について**：厚生労働省HP

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/mers.html>

お知らせとお詫び

高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）で毎週発行している感染症週報の下記の号において、各週の全国値、各週末全国累計値に誤りがありましたので、訂正したものをホームページに掲載させていただいております。

今後は、発行前の確認を徹底し、再発防止に努めてまいります。

ご迷惑をおかけした事を深くお詫び申し上げます。

掲載ページ URL <http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/kansenshouzyouhou.html>

記

15週 27週、29週、30週の週報

平成27年8月12日 高知県衛生研究所長 岡林 康夫

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第32週 平成27年8月3日(月)～平成27年8月9日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第32週					計	前週	全国(31週)	高知県(32週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H26/12/29～H27/8/9
インフルエンザ	インフルエンザ									313 ( 0.06)	15,328 ( 319.33)	1,146,032 ( 234.17)
小児科	咽頭結膜熱			1	1		1	3 ( 0.10)	11 ( 0.37)	1,562 ( 0.50)	116 ( 3.87)	44,127 ( 14.12)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			18	4	1	2	25 ( 0.83)	28 ( 0.93)	5,357 ( 1.70)	2,047 ( 68.23)	259,365 ( 83.00)
	感染性胃腸炎	2	16	31	5	1	3	58 ( 1.93)	78 ( 2.60)	11,281 ( 3.58)	4,692 ( 156.40)	623,572 ( 199.54)
	水痘		2				1	4 ( 0.13)	6 ( 0.20)	938 ( 0.30)	365 ( 12.17)	47,267 ( 15.13)
	手足口病	10	28	35	3	17	10	103 ( 3.43)	137 ( 4.57)	32,289 ( 10.26)	1,447 ( 48.23)	216,971 ( 69.43)
	伝染性紅斑		5	6	1			12 ( 0.40)	12 ( 0.40)	2,249 ( 0.71)	106 ( 3.53)	59,803 ( 19.14)
	突発性発疹	6	4	10		1	1	22 ( 0.73)	13 ( 0.43)	1,870 ( 0.59)	441 ( 14.70)	50,796 ( 16.25)
	百日咳							( )	( )	72 ( 0.02)	10 ( 0.33)	1,459 ( 0.47)
	ヘルパンギーナ	4	40	80	21	8	17	170 ( 5.67)	152 ( 5.07)	9,603 ( 3.05)	560 ( 18.67)	60,359 ( 19.31)
	流行性耳下腺炎			16				9	25 ( 0.83)	6 ( 0.20)	1,825 ( 0.58)	540 ( 18.00)
RSウイルス感染症		1	5	1			2	9 ( 0.30)	3 ( 0.10)	718 ( 0.23)	446 ( 14.87)	31,838 ( 10.19)
眼科	急性出血性結膜炎							( )	( )	8 ( 0.01)	( )	279 ( 0.41)
	流行性角結膜炎			1				1 ( 0.33)	( )	590 ( 0.86)	11 ( 3.67)	11,514 ( 16.96)
基幹	細菌性髄膜炎							( )	( )	5 ( 0.01)	7 ( 0.88)	243 ( 0.51)
	無菌性髄膜炎							( )	( )	39 ( 0.08)	8 ( 1.00)	528 ( 1.11)
	マイコプラズマ肺炎			7			4	11 ( 1.38)	6 ( 0.75)	165 ( 0.35)	145 ( 18.13)	3,639 ( 7.68)
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			3				3 ( 0.38)	1 ( 0.13)	5 ( 0.01)	33 ( 4.13)	202 ( 0.43)
	感染性胃腸炎							( )	( )	5 ( 0.01)	67 ( 8.38)	3,941 ( 8.31)
計 (小児科定点当たり人数)	22 ( 11.00)	96 ( 13.71)	213 ( 18.36)	36 ( 11.99)	29 ( 14.50)	50 ( 9.20)	446 ( 14.35)			68,894	26,369 ( 678.33)	2,599,478
前週 (小児科定点当たり人数)	53 ( 26.50)	85 ( 12.00)	201 ( 18.01)	39 ( 13.01)	38 ( 19.00)	37 ( 6.80)		453 ( 14.87)				

注 ( ) は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第32週					計	前週	全国(31週)	高知県(32週末累計)		
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H26/12/29～H27/8/9	H26/12/29～H27/8/2
インフルエンザ	インフルエンザ									0.06	319.33	234.17	
小児科	咽頭結膜熱			0.09	0.33		0.20	0.10	0.37	0.50	3.87	14.12	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			1.64	1.33	0.50	0.40	0.83	0.93	1.70	68.23	83.00	
	感染性胃腸炎	1.00	2.29	2.82	1.67	0.50	0.60	1.93	2.60	3.58	156.40	199.54	
	水痘		0.29				0.50	0.20	0.13	0.20	0.30	12.17	15.13
	手足口病	5.00	4.00	3.18	1.00	8.50	2.00	3.43	4.57	10.26	48.23	69.43	
	伝染性紅斑		0.71	0.55	0.33			0.40	0.40	0.71	3.53	19.14	
	突発性発疹	3.00	0.57	0.91		0.50	0.20	0.73	0.43	0.59	14.70	16.25	
	百日咳									0.02	0.33	0.47	
	ヘルパンギーナ	2.00	5.71	7.27	7.00	4.00	3.40	5.67	5.07	3.05	18.67	19.31	
	流行性耳下腺炎			1.45				1.80	0.83	0.20	0.58	18.00	12.01
RSウイルス感染症		0.14	0.45	0.33			0.40	0.30	0.10	0.23	14.87	10.19	
眼科	急性出血性結膜炎									0.01		0.41	
	流行性角結膜炎			1.00				0.33		0.86	3.67	16.96	
基幹	細菌性髄膜炎									0.01	0.88	0.51	
	無菌性髄膜炎									0.08	1.00	1.11	
	マイコプラズマ肺炎			1.40			4.00	1.38	0.75	0.35	18.13	7.68	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			0.60				0.38	0.13	0.01	4.13	0.43	
	感染性胃腸炎									0.01	8.38	8.31	
計 (小児科定点当たり人数)	11.00	13.71	18.36	11.99	14.50	9.20	14.35			678.33			
前週 (小児科定点当たり人数)	26.50	12.00	18.01	13.01	19.00	6.80		14.87					

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）  
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）  
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869